

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年12月25日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691100038
法人名	社会福祉法人 椎原寿恵会
事業所名	高齢者グループホーム金峰やすらぎ館
所在地	南さつま市金峰町宮崎3992番地1 (電話) 0993-58-4075
自己評価作成日	平成25年 10月24日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成25年11月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居された方々への尊敬の念を持ち、その思いに耳を傾けることを重視しています。「生き甲斐をもてる暮らし」を確立する為に野菜や花作りから、グランドゴルフ等の園外活動、家事全般に利用者の方々それぞれが活躍できる環境作りをおこなっています。また、祭りや外食ドライブなど季節を感じていただけるような外出支援にも取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道から少し入った田園風景が広がる静かな環境に建てられているグループホームである。棟続きの造りとなっており、ユニット間を行き来できることで全職員が全利用者に関わる体制を築き、夜勤時の安全対策、外出支援や行事なども職員体制を工夫して質の高いサービスの提供に結び付けている。

ホームは早くから自治会に加入しており、地域のグラウンドゴルフに利用者も参加し、夏祭りにはホームからもかき氷を提供するなど地域の一員として良好な関係を築いている。また、校区の文化祭には一年間のホームの取り組みを掲載した「やすらぎ館便り」を出品してグループホームの啓蒙に努めている。他にも近隣とは徘徊や災害時の協力関係が築かれており、認知症への理解が得られている。

外出やホーム内行事が多く、年2回のお彼岸の墓参りは全員実現できており、知人と会う機会にもなることから、馴染みの関係継続の支援に繋がり本人・家族に大変喜ばれている。また、毎月外食に出かけ、季節の花見や遠足は手作り弁当持参で楽しんでいる。外出を心待ちにしている利用者も多く「外出と行事予定」を利用者向けに見やすく作り、カレンダー横に掲示して利用者のモチベーションを維持している。

排せつ支援も職員の声かけ誘導により、入居後に改善された利用者も多く、現在、ほぼ全員が日中は布パンツで過ごしており家族の負担軽減と利用者本人の活性化に繋がっている。

管理者・職員の研鑽意欲が高く現状に満足することなく常に質の向上に努め、利用者主体のケアに取り組んでいる。ホーム内が明るく活気があり、利用者同士の関わりや会話も見られ社会性が築かれているグループホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念は、全スタッフで考え、目につく場所へ貼り共有し、実践しているが、個々の意識の違いがある。	法人の理念と職員全員の意見を集約して作成した地域密着型サービスの意義を踏まえたグループホーム独自の理念を掲げている。毎朝理念に基づいた日々の目標を設定し、業務終了後、個々に自己評価をするなどしてケアの統一とサービスの質の向上に向けて取り組んでいる。理念は玄関ホールとスタッフルームに掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会の行事等へ積極的に参加し、理髪店、美容室も近所の店を利用している。また、自治会へ加入し、不在時の協力も依頼してある。	町内会に加入して地域のグラウンドゴルフや文化祭、夏祭り、清掃活動等に職員・利用者が積極的に参加して地域の一人としての交流に努めている。他にも近隣の保育園・地元高校・専門学校生の実習の受け入れも行い、子ども達との交流は利用者の楽しみとなっている。また、踊りやダンス、楽器演奏などのボランティアの来訪も多い。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	自治会の行事参加や、地域内の散歩、やすらぎ館だよりの回覧、店の利用にて、少しの援助で今までの生活と変わらず、暮らせている事を感じてもらえるのではと思っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回家族、地域、行政の方々に参加してもらい、様々な角度からの意見を出して頂き改善につなげている。	公民館長・民生委員・駅通り自治会長・家族代表・行政、時には消防署と交番の職員の参加もあり、毎回幅広い参加者を得て意見交換、ホームや地域の問題点などを話し合っている。運営推進会議を通じて地域の理解と協力が得られるようになり、利用者のサービスの質の向上、ホームの運営、安全対策に多いに活かされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話やメールで連絡を取りやすい環境が築けている。事故や感染症等、市の担当者にもその都度指示を仰いでいる。	毎回、運営推進会議に担当者の参加があり、ホームの実情や取り組みを理解してもらい、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外の施錠はせずに、玄関窓はそれ以外の時間は開放している。また、委員による勉強会も行い身体拘束について理解し、日頃のケアに取り組んでいる。	重要事項説明書に「利用者に対して行動を制限する行為は一切行いません」と明記されており、ホームの方針として拘束のないケアに取り組んでいる。また、身体拘束廃止委員会による話し合いも毎月行い、日常の業務で疑問や問題が生じたら都度話し合う機会を設けている。日中は施錠などせずに職員間の連携で安全で自由な生活を支援し、帰宅願望の強い利用者には職員がさりげなく着いて行き散歩等に対応し、地域とも見守りや声かけなどの協力関係が築かれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回は資料を用いて、理解を深めている。身体的暴力はもちろんのこと、言葉による暴力等、目に見えない暴力がないようスタッフ同士で注意し合うよう努力している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回は資料を用いて権利擁護とはどのようなものなのか理解してもらっている。機会があれば支援したいと思っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申し込みの時点である程度説明した上で申し込みをいただき、入居時の説明でも一方的に説明するのではなく、その都度確認しながら説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回の無記名のアンケートや担当者、管理者の両方から意見の言いやすい関係づくりに努めている。	日常の面会時、電話連絡時等に意見、要望を引き出すように努めている。また、毎年、家族に無記名のアンケートを実施して出された意見や要望については必ず全家族に結果と改善策まで報告している。第三者委員の設置もあり、重要事項説明書に明記して外部者へ表せる機会を設けている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各検討委員会が改善したいことなど積極的に提案し、自分たちが「良くしていく」という意識を持ってもらっている。微妙なことは管理者が判断し、本部の意見を仰いでいる。	毎朝夕の申し送り時や毎月の職員会議と検討委員会（美化園芸・ヒヤリハット身体拘束・接遇・健康食事・ケア・レクリエーション外出）の話し合いを行って、サービスの質の向上やホームの環境改善などの話し合いを行っている。職員から出された意見・提案については可能な限り改善及び実現に向けて反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課で実績や勤務の評価を行っているが、給与とかではなく、認知症の方との関わりの中から「やりがい」を見出せるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>資格取得や研修などスタッフ全員で協力して支援していけるように体制を整えている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県・薩摩半島認知症GH連絡協議会の活動の中で、他事業所との交流を図り、困難事例などへの意見もいただいている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>コミュニケーションを図りながら傾聴し要望を汲み取り安心して生活していただけるように努めているが、全スタッフはできていない。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>「入居＝全て任せる」ではなく家族と一緒に支援していただけるよう意見を聞きながら、また面会時等、こまめに情報交換を行いながら関係作りに努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>サービス利用時に家族へ今後の意向を聞き、「その時」になったときに他のサービスの情報提供をしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>一緒に作業等行い、出来ること、出来ないことを互いに補いながら家族としての関係を築くようにしているが、個人でその思いに違いがある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の活動状況や電話・手紙での連絡を行いながら、家族にも支援していただき、本人との関係が途切れないようにしている。中には関係が希薄に思える方もいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年2回の墓参りと、馴染みの美容室への支援、馴染みの行事への参加など行っているが、馴染みの人や場所への把握ができていない。	利用者全員、年2回彼岸の墓参りに出かけており知り合いと会うと会話も弾んで喜ばれている。また、入居前からの行きつけの美容室の利用や、家族の協力を得ながら出身地の地域行事参加など可能な限り馴染みの人や場との関係が途切れないように支援している。友人知人の面会も多く、関係が途切れないようにホーム便りを友人知人にも送付して関係の維持に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を配慮した環境作りに努め、スタッフも間に入りレクリエーションや作業など行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されている方は面会に行き家族や看護師から情報を得ている。退去された方の家族に会ったら近況を聞いたりしている。相談や支援は管理者が行う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望は会話の中から把握するように努めているが、全員の思いは把握できていない。本人本位での検討がまだスタッフ本位である。	家族、関係者からの情報、日常の会話や言動、表情などから思いや意向を把握するように努めている。難聴の利用者とは筆談で意思疎通を図り、思いや意向を把握できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話、家族からの聞き取りを行ったり、情報提供所を見たりして把握するように努めているが、全員は把握できていない。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録や職員間での情報交換、また日々の暮らしの中で把握するように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族には面会時など話せるときに意向を聞き、毎月ケース会議にて確認と変更について話し合っている。	入居時に本人、家族の生活に対する意向を聞き、職員、主治医の意見を取り入れながら個々に応じた介護計画となっている。毎月のモニタリングや日常の生活で変化が見られたら都度見直しを行い、また、変化がなくても定期的(6カ月)に見直しをして現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月の記録の中から抽出すべき事項については連絡簿に記載し、検討すべき事はケア委員で話し合いを行い実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対しては各担当スタッフ、管理者がそれぞれ柔軟な対応を心掛けているが、サービスの多機能化には取り組めてない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のグランドを利用させてもらったり、歩いて近所の花を見に行ったりと、地域の中での暮らしに重点をおいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問看護師と連携して健康管理を行う中で、必要な場合は受診に繋げている。普段は2週間に1回の主治医の往診がある。	本人・家族の希望するかかりつけ医の受診支援を行っている。受診は基本は家族にお願いしているが、本人・家族の状況に応じてホームでも柔軟に受診同行している。協力医療機関とは24時間連携が図られ、訪問看護師による利用者の健康管理が密に行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>週2回の訪問時に、看護師に気になることを伝え、指示や対応は連絡簿へ記入し情報を共有して受診にも繋げている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>主治医や相談員と連携して今後の生活について話し合いを行っている。話し合いの中で、お互いができる支援について決めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>医療連携体制の指針により説明を行っているが、不安に思われるかなので、「望まれるなら最後まで」と説明しているし、スタッフにもその旨説明している。</p>	<p>重度化や終末期に向けたホームの指針を作成し、入居時に説明して同意を得ている。また「利用者及び家族の意向」を作成している。入居後は利用者の身体状況に応じて主治医の判断のもと、家族と方向性を話し合いホームでできる最大限の支援に取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>定期的に訓練は行っており、AEDも導入し備えてある。夜間帯も連絡網により早急な対応ができるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災、地震想定した避難訓練を年2回行っており、避難経路も2方向確保し、2方向で訓練している。</p>	<p>年2回昼夜間想定で避難訓練を行っている。訓練に地域住民、家族の参加も得られており地域とは災害時の協力関係が築かれている。自動通報システム、スプリンクラーは設置済みで備蓄も確保されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇委員により勉強会を開いたり、毎月の職員会議時に、注意を行っているが、個々の意識が低く、特に言葉遣いが改善されていない。	利用者の人格を尊重し、日常のケアや関わりに際して尊厳やプライドを損ねないような言葉かけや対応に努めている。毎月接遇委員会による話し合いや業務の中でも気づいたら都度注意し合うなどして職員の資質向上に向けて取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意識はしているものの、出来ていないときも半分くらいある。スタッフ側の押しつけになっているときもある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の方のペースに合わせて希望に添うようにしているが、スタッフ本位のペースで過ごしてもらっていることがまだ多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	身だしなみは整えるよう、声かけ等行い支援できているが、おしゃれの面では上下ちぐはぐであったりと「その人」らしく支援できていないときがある。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物から片づけまで、それぞれを得意な方が分担しながら職員と一緒にしている。	個々の力量に応じて買い物から準備、片づけまで職員と共に行い、そばうちや餅つきなど利用者が力を発揮してくれている。また、嗜好に合わせて毎朝パンかご飯を選んでもらっている。家庭菜園の収穫を楽しんだり、毎月の外食やお弁当持参での花見・遠足などにも出かけている。他にもテラスでのお茶や食事、ソーメン流し、庭でのバーベキューなどさまざまな趣向を凝らして「食」が楽しめるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせ健康委員にて量を調整したり、摂取量は記録し、一日を通して分かるようにしてあり随時対応も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯は毎日、洗浄剤につけている。仕上げ磨きを行っているが残存能力を活かしたケアをしているスタッフと、出来ることまでしているスタッフがいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ケア委員にて話し合い、それぞれの方のパターンをチェック表等にて把握し、誘導を行い、紙パンツの使用を減らしている。	排せつチェック表を作成して個々のパターンを把握し、身体状況に問題がない限り、日中は全員トイレ誘導を行ってトイレでの排せつを支援している。職員の声かけ誘導により入居後に改善された利用者も多く、現在、ほぼ全員が日中は布パンツで過ごしており継続できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	勉強会を行い、便秘の及ぼす影響は理解している。排便コントロールが出来ない方等チェックを行い内服にて調整している。運動等があまり出来ていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	毎日入浴できる体制はできている。スタッフによっては順番を決めたりしているときがある。	基本的には一日おきを目安としているが、個々の希望や身体状況に応じて回数や時間など柔軟に入浴支援を行っている。自立している利用者には職員の見守りで安全で安心して入浴してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠できるように生活リズムを考慮しながら日中の活動量を増やしたりしている。休みたい時に、休んでいただけるようにしてある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々が理解できていない為、時折服薬忘れがある。薬の変更による症状の変化等は変更時に連絡簿へ記入し、状態の確認をするように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせ生活暦をふまえ、家事など得意なことを分担して行い役割を担って頂いている。散歩、テラスでの外気浴で気分転換を図り、好みのテレビ番組があるときは声かけ行っている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食ドライブや祭りの見学等は随時行い外へ出掛ける支援は行っているが、全員の希望に添った支援とはいえない。毎日1人はスタッフと買い物へ行っていたが、毎日2人行くようにし外出の機会を多くしている。	日常的にホーム周辺の散歩、買い物などに出かけており、気候のいい時期はテラスを利用してお茶や食事、日光浴などを行っている。また、毎月外食にも出かけ、彼岸の墓参り、地域行事への参加や見学、初詣、季節の花見、水族館などにも出かけている。外出を心待ちにしている利用者も多く、利用者向けに見やすく作った「外出と行事予定」をホールのカレンダー横に掲示するなどの工夫をして利用者のモチベーションを高めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>基本的には預かり管理している。本人の希望、能力に応じて家族へ了承をもらい所持していただいている。外出時に使用している方も数名いる。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>年賀状と暑中見舞いはスタッフと一緒に書いて出している。電話は要望が無いので、荷物が届いた時はこちらからかけている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>美化委員により清潔は保たれていると思う。その季節の草花を飾ることで季節感はある。接遇委員により不快な音をたてないように注意しており、全員が意識して行動していると思う。</p>	<p>共用空間は食事のダイニングとテレビの置かれた畳のリビングに分かれ、メリハリのある生活が送れるように配慮されている。台所もオープンで手伝いやすい環境で食事の準備の光景やにおいなど五感を刺激してくれる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>和室も以前より頻繁に活用されるようになり少しずつではあるが、思い思いに過ごせるようになってきているのではと思われる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物があれば持ってきていただくようにしており、写真を飾ったり、テレビを置いたりして落ち着いて過ごせるようにしている。	居室の入り口にはそれぞれに違う表札が掲げられ個別性がある。テレビ、椅子、タンス、家族の写真、お気に入りの飾りものなどが持ち込まれ、それぞれに居心地良く過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	声かけや見守りのみで利用者を把握できるようにしている。自室も誘導しなくてもいいように配慮されている。台所も利用者の方から目につく所にあり洗濯物なども本人から声をかけて頂けるようにしている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
		○	3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない